

教 科 公民	科目 公共	(必修)	授業時数 2 単位2
			履修学年 1 学年1

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と社会の在り方について、現代の諸課題を見方・考え方を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会をつくるものとしての意識を持たせることを目指す。 ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、主体となって活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けた考え方を身につけ、事実を基に多面的・多角的にとらえ、公正に判断する力を育成させる。
----	---

●学習内容

1学期	2 4 時間	2学期	3 0 時間	3学期	2 4 時間
第1章 第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち ○契約が対等な当事者間の合意といふための条件を理解する。 ・契約と消費者の権利 ・責任 1 さまざまな契約と法 2 消費者の権利と責任	24	第2章 政治的な主体となる私たち ○民主政治において、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 国会と立法 4 内閣と行政の民主化 5 地方自治と住民の福祉 第3章 経済的な主体となる私たち ○高齢化社会における労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。 ・雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題	15	経済のグローバル化 ○経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人々が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 1 國際分業と國際貿易体制 2 國際收支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本 4 地域的経済統合の動き 5 國際社会における貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 國際社会のこれから	12

教材	授業の進め方
高等学校 公共(第一学習社)	・社会の一員としての認識を持つための授業である。学習活動のねらいを意識したうえで授業に取り組む。 ・現代社会の問題にふれ、それに対する自分の意見を文章や言葉で発表する活動も行うため、日ごろから世情の動きに敏感となるようにニュース・新聞等にふれる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛けとなりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題の解決にむけた選択・判断の手掛けとなりのための考え方や基本的知識を身に付ける。また、学んだ知識を活用し、与えられたテーマに基づいて、自己の考えをまとめ、文章で表現する力を身に付ける。さらに、他者が持つ意見を受け入れ、それも踏まえ、意見を発表する力を身に付けるようとする。	今後の社会を担う者として、よりよい社会の実現に向けて、公正に判断する力を育成させる。
評価方法		・提出課題、小テスト ・ノート提出、定期考查	・定期考查 ・発問評価	・授業での発言内容・態度

単元別 評価規準

1 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・成年年齢が 18 歳以上となったことに対し、その責任について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題について具体例をもとに解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と消費者の権利について、積極的に学ぼうとしている。

2 政治的な主体となる私たち

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙権年齢が 18 歳以上となり、参政権の意義について理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割などを理解している。 ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ等の民主政治のしくみについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な政治参加としての地方自治のしくみとその意義を理解している。また、地方自治の課題について考察しどう改善する必要があるかを考え、意見を表明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治と地方自治等について、積極的に学ぼうとしている。

3 経済的な主体となる私たち

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働問題について、日本の雇用慣行とその変化について主体的に考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用事情の変化に伴う労働問題を、具体例をあげ、自分の意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働問題について、現代の諸課題をとらえ、将来のあり方について考えようとしている

4 経済のグローバル化

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	<ul style="list-style-type: none"> 以下について理解している。 ・グローバル化の進展による貧困や格差 ・地球環境問題。 ・国際問題の解決について多様な組織の協力の重要性 ・地域的経済統合がもたらす影響。 ・貧困や格差の解消と国際機構の役割や政府開発援助の意義。 ・地球環境問題と国際的な取り組み。 ・資源の有限性と新エネルギーなどの開発への期待について。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済がグローバル化する中で、貧困や格差などの問題を乗りこえ、すべての人々が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考えることができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化と諸問題について、興味関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。

教科 地歴公民	科目 地理総合 (必修)	授業時数 2 単位2 履修学年 3 学年3
------------	-----------------	--------------------------------

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の地理的な見方・考え方を働きかせ、課題を追求、解決し、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指し、持続可能な社会の実現、環境条件と人間の営みとの関わりを地理的諸課題としての意識を持たせることを目指す。 ・グローバルな視点から国際理解や国際協力の在り方を、地域的より防災の諸課題への対応を適切かつ効果的に調べまとめ、技能を身に付けるようにする。 ・地図や地理情報システムを利用し、実践的な地理的技能を育成する。
----	--

●学習内容

1学期	2 4 時間	2学期	3 0 時間	3学期	2 4 時間
第1部 地図でとらえる現代世界 ○地図の読み方を基礎に地図や地図情報、位置、範囲、縮尺を理解する 第1章 地図と地理情報システム。 ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 第2章 結びつきを深める現代世界 ○現代世界の構成の読み方を基に世界的な視野から考察する。 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界 第2部 国際協力と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 ○世界の人々の特色ある生活文化を他の文化を尊重し国際理解を深める。 ・世界の地形・気候と人々の生活 ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活	12	第2章 地球的課題と国際協力 ○地球環境問題、資源・エネルギー・人口・食料・都市問題を理解する。 ・複雑に絡み合う地球の課題 ・地球環境課題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題 ・都市、居住問題	15	第3部 持続可能な地域形成と私たち ○地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応の重要性を理解する。 第1章 自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震、津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え 第2章 生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査と地域の展望	12

教材	授業の進め方
高等学校 新地理総合(帝国書院)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本的用語を理解し学習活動のねらいを意識したうえで授業に取り組む。 ・身の回りの社会問題や地理的事象を主体的に考察する。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	地理の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料、統計から、必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理の諸課題の解決にむけた選択・判断の手掛かりのための考え方や基本的知識を身に付ける。また、学んだ知識を活用し、与えられたテーマに基づいて、自己の考えをまとめ、文章で表現する力を身に付ける。さらに、他者が持つ意見を受け入れ、それも踏まえ、意見を発表する力を身に付けるようにする。	今後の社会を担う者として、新しい環境を受け入れ意識し多様な自然と地球的課題の解決に向けて、判断する力を育成させる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題、 ・プリント提出、定期考查 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・発問評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発言内容・態度

単元別 評価規準

1 地図でとらえる現代世界

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 （身に付ける力）	・緯度、経度、時差、図法、主題図、一般図、統計地図、日本の領域、排他的経済水域、領土、国連の役割、経済のグローバル化、国際分業と貿易の自由化、世界を結ぶ交通、情報通信、観光のグローバル化を理解し情報を収集し読み取り、まとめる基本的な技術を身に付けている。	・緯度と経度のしきみ違い、さまざまな図法、一般図、主題図、統計地図、時差、日本の位置と領域、日本の領土問題、国際紛争、経済のグローバル化、自由貿易、国際分業、世界の交通、情報通信、観光のグローバル化について目的、具体例をもとに多面的に考察、解決し表現しようとしている。	・地図課題、時差、図法、身の回りの主題図、一般図、統計地図、地理情報システム、日本の位置と領域、排他的経済水域、日本の領土問題、貿易の変化と国際分業、観光のグローバル化について、課題を主体的に追究、解決し、よりよい社会の実現の課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2 國際理解と國際協力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 （身に付ける力）	・世界の人々の生活文化の多様性と変容の要因、生活文化、国際理解、変動帯のプレートと安定地域、河川、海岸、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形と生活について多面的に考察し理解している。 ・気候、季節風のしきみ、ケッペンの気候区分、熱帯、乾燥、温帯、亜寒帯、寒帯の気候、植生、生活、東南アジア、中央アジア、インド、ラテンアメリカ、ロシア、アメリカ合衆国、ヨーロッパについて理解している。	・世界の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けて地理的環境により変容する課題、変動帯と安定地域への影響、河川と海岸がつくる地形と生活の関わり、気候の影響、気温と降水量のしきみと分布の特徴、季節風のしきみと生活の影響、ケッペンの気候区分、植生と気候の関わり、熱帯、乾燥、亜寒帯、自然環境を生かしたオーストラリアの鉱工業、季節風と東南アジアの人々の生活、熱帯気候の商品作物、言語と民族の関わり、宗教と食生活、ムスリムの生活、オアシス農業、石油資源と生活、南アジアのヒンドゥー教の影響、宗教と農業革命、インドのICT産業と工業化、ラテンアメリカの農業と工業、西アフリカの一次産品、携帯電話の普及の影響、ロシア文化、食生活、産業、アメリカ合衆国の知的産業、サンベルト、シェール革命、穀物メジャー、適地適作農業移民国家、中国市場経済の発展の影響、EU統合の共通経済、農業政策について考察しどう改善する必要があるかを考え、意見を表明できる。	・生活文化の多様性と国際理解について、変動帯と安定地域のよりよい社会の実現、地震、火山活動と生活の影響、河川、海岸、氷河がつくる地形と生活の課題を積極的に学ぼうとしている。気候、大気、風のしきみ、熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の気候と植生が生活に与える影響を主体的に追及、解決しようとしている。オセニア、東アジア、中央アジア、北アフリカ、インド、ラテンアメリカ、ヨーロッパの農業、産業、文化、宗教に関して、よりよい社会の実現の課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3 地球的課題と国際協力

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 （身に付ける力）	・地球環境問題、資源、エネルギー、人口、食糧問題都市問題について主体的に考えられる。	・地域の結びつきや持続可能な社会に着目し主題を設定し要因の具体例をあげ、自分の意見を述べることができる。	・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現の課題を主体的に追及、解決しようとしている

4 持続可能な地域形成と私たち

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 （身に付ける力）	自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応について理解している。 ・	地域性を踏まえた防災について自然や社会条件、地域との関わりに着目し主題を設定し、自然災害への備えや対応をどうあるべきか考え方表現することができる。	自然環境と防災について、よりよい社会の実現を考え課題について、興味関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。

課程 定時制

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2 単位	学年	4年	科	基礎工学科・建築科
----	----	----	------	-----	------	----	----	---	-----------

1、科目の目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立ち、現代社会の問題に主体的に考察し公正に判断し自ら人間としての在り方生き方を考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。1・3学年で学んだ地理A、世界史Aの基本をふまえて、今日の日本と世界が抱える様々な問題を具体的に考察し、現代に生きる我々の現在と未来を考える資質を養う。また、ニュースや新聞を活用し、時事的な問題に目をむけさせる。

2、使用教科書・副教材

高等学校 改訂版 新現代社会（第一学習社）

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	・私たちの生きる社会 ・環境と私たちの生活 ・資源・エネルギー問題と私たちの生活 ・科学技術の発達と私たちの生命	同左	24時間
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	8月	・高度情報化社会と私たちの生活	同左	30時間
	9月	・現代の経済社会と私たちの生活 ・雇用と労働問題 ・労働環境の整備 ・公害の防止から環境保全へ ・消費者問題と消費者主権		
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	・現代の経済社会と私たちの生活 ・社会保障と福祉社会 ・これからの社会保障 ・ともに生きる社会をめざして ・社会保障と消費税 ・震災から復興への道のり ・人口問題と私たちの未来	同左	24時間
	1月			
	2月			
	3月			

合計 78時間

4、評価の方法

- 定期考査・小テストの実施により、授業の内容の理解度と学習の定着度を評価する。
- 意欲、関心をもって授業に取り組んでいるかを評価する。
- 考えたことを言葉・文章で表現することができるかどうかを判断する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- 出欠席の状況をきちんと把握させる
- ノートをきちんととらせる